



もがトンのFP通信

～経営者向け～

2011年4月&GW 合併号

はじめに

皆様、こんにちは。ファイナンシャルプランナーの最上です。

東日本大震災からもうすぐ2ヶ月が過ぎようとしています。マスコミ、インターネット等から得られる情報によりますと、復興というには程遠い現地の様子が日々伝えられます。

まだまだ、傷跡は深いです。

現地で日々大変な努力をなさっている方々に敬意を表すると共に一日も早く元の平和で美しい東北地方に戻られることを共に祈りたい気持ちです。やはり、今月も「地震・大規模災害」関連のテーマになってしまいます。

地震は“人ごと”ではありません。…いつ、どこにでも襲ってくる災害です。

いざという時に被害を最小限に抑え、速やかな復興・回復を実現するためには、平常時に準備が必要です。

どのような準備をしておくべきなのでしょうか？

この号のポイント：

- 1 “地震・津波”リスクは“人ごと”ではありません。
- 2 企業生き残りの為に、普段から、準備が必要です

地震対策マニュアルの作成と、社内体制の整備

自社の実態に沿った “対策マニュアル” を作る

いざという時には、パニックになります。…

パニックを避けるためには、平常時（心の余裕のある時）に最悪の事態を想定して、“対応策”を練っておく必要があります。

今のうちに「地震（大規模災害時）対応マニュアル」を作っておくべきです。

但し、巷にあふれるリスクマネジメントの書物や論文の通りに、マニュアルを作ろうとすると、うまくいかないのではないのでしょうか。全て「大企業向けの大層なマニュアル」となってしまうからです。

「どこから手をつけていいのか解らない。」「いろいろ細かい項目があるが、自社に関係ないことも多い。」…などの感想を持たれた方も多いのではないのでしょうか。

世の中小企業と言われる企業体では、専任の“地震対策プロジェクトチーム”に裂ける程、人材と時間に余裕はありません。“日々の業務”の合間に作業を進め無くてはいけません。メンバーが生き活きと取り組める作業でなくてはなりません。

貴社には貴社独自の事情にあった“対策マニュアル”を作り上げるべきでしょう。

自社独自のマニュアル作り…

教科書的に“マニュアル”を体系的に組み上げようと思うと、急に現実感のない作業になってしまいます。常に**実感**と**当事者意識**を持ってマニュアル作りを進めるには…。

- 1) 先ず、普段から慣れている「**自社の業務の流れ**」を書き出す事から始めましょう。
“生産”“物流”“販売”など各セクションで実務に携わっている方々で意見を出し合い、各セクションがどこから何を仕入れて、何処へ売っているのか、どのように作っているのか、どのように運んでいるのか等、業務の流れを図にしましょう。
- 2) 実はこれは自社の「**サプライチェーン**」を明確化している作業になっているのです。
- 3) そこで“**「巨大地震」が起こった**”と仮定、サプライチェーンがズタズタに寸断された“**最悪の**”状態を想定してみます。
社員は全員生き残ったと仮定して“どのようにして事業を再出発するか”を考えましょう。原料の確保は？電源の確保は？資金の確保は？販売先は？…。自社のサプライチェーンの脆弱なポイント、その対策が見えてくるのではないのでしょうか。
- 4) 復興するには何よりも“**人材**”が必要です。…先程は全員生き残ったと仮定しましたが、では**実際に全員生き残らせるにはどうしたらいいのでしょうか**。どのように避難したらいいのか？連絡の取り方は？誰をリーダーにしたらいいのか？誰に誰の権限を移譲したらいいのか？……などなど、生き残った後のことも考えながら緊急避難態勢が出来上がってきます。
- 5) 社員は生き残っても家族がダメージを受けていては仕事どころではありません。会社として社員とその家族をバックアップする方法を考え出しましょう。

自社のサプライチェーンが、キーワード

※実は「対策マニュアル」は“ただ逃げるだけのマニュアル”ではダメなのです。

生き残って、会社を再出発させるマニュアルでないとダメなのです。

自社の所謂“サプライチェーン”の確認と見直しの上に、“大規模災害対策”を組み立ていかないと、“血の通った”そして“**使える**”マニュアルにはならないのです。

教科書の出番です…

概略ができましたら、今度は教科書の出番です。

自社独自の業務から導き出したマニュアルには、“**偏り**”や“**抜け**”があります。教科書と見比べて一般論で、“**抜け**”をチェックしましょう。

「機械の転倒防止」などの、“**当たり前じゃないか…**”と思うようなことが、抜けてたりしますからね…。

経営者にとっての災害準備チェックリストとは…

次に、地震などの大規模災害に襲われた時、中小企業の経営者にとって最も大切な仕事を考えましょう。…何でしょうか？…

それは「復興資金の調達」です。

私が、現在、巷に出回っているリスクマネジメントの教科書に対して、最も不満を持っているのは、この点なのです。…殆ど触れられておりません。

その時になれば、「保険」も使わないといけないだろうし、「貯金」も取り崩さないといけないだろうし、「補助金」も引張ってこないといけないでしょう。…孤独で辛い使命ですが、中小企業では経営者がやらないと仕方がないのです。

平常時に先ずチェックリストを作って下さい。自社独自のチェックリストです…

- ① 必要資金…買掛金・支払手形の決済でいくら必要か？従業員の給料は？
- ② 売掛金・手形は現金化できるのか？
- ③ 売掛・買掛で相殺できるところはないか？
- ④ 直ぐに取り崩せる資産は？（簿内・簿外に換金性の高い資産はあるのか？）
- ⑤ 保険でいくら出てくるのか？ いつ、もらえるのか？

等等…常に頭に入れておくことが肝要です。

復興資金 の 調達

ご参考資料

今回の地震でインターネット上で「マニュアル作り」の参考になるレポート等を探してみました。大部分が大層過ぎるレポートでしたが、以下のレポートは参考になると思います。

- 1) 東京海上リスクコンサルティング(株)「リスク・レーダーN02002-3」

http://www.tokiorisk.co.jp/risk_info/up_file/200402057.pdf

※「概論」的で良くまとまっていると思いました。表の中身の項目も参考になると思います。阪神大震災を受けてのレポートです。

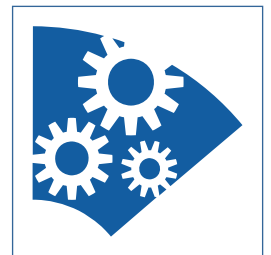
- 2) 大垣地域産業振興センター 地震対策マニュアル

<http://www.ogakicci.or.jp/kassei/pdf/jisintaisaku.pdf>

大規模災害時 対策事例集

<http://www.ogakicci.or.jp/kassei/pdf/taisakujireisyu.pdf>

※大垣の企業が参加して作り上げた対策マニュアル。理屈を捏ねくり回さず、実践的。特に事例集は個別の対策が説明されて大いに参考になると思います。



【ご注意】本メールマガジンの記事に紹介・引用しております金融商品等に関しましては、あくまで一般的な内容をご紹介したものです。個々のケースにより効果は変わってきます。限られた紙面での記事でございますので全ての場合を説明できない点があることをご了解下さい。

実際に活用なさる場合は、専門家に内容を詳しくご確認の上でお願い申し上げます。

本記事内容を誤解なさって被られた被害の責任は、当方では負いかねます。何か具体的に本記事内容をご活用になられる場合には、必ず当方までご確認くださいますようお願い申し上げます。

有限会社 最晃堂

～企業のリスクファイナンス

事業承継・相続対策～

電話番号：072-298-3715

FAX 番号：072-298-3726

携帯電話：090-8539-5376

電子メール：mogami@saikoudo.co.jp

ホームページ：<http://www.saikoudo.co.jp>